

東京都足立都税事務所長賞

「税金を払うことは損なのか。」

足立区立 扇中学校

三年 井上 路菜

例えば、八六円のラムネを買うとする。すると、それに上乗せされる消費税は七円となり、合計で九三円の買い物をすることになる。

私はよくお店で前述のラムネやクッキーなどのお菓子を買う。このように、私達中学生にとって、一番身近な税金は消費税だ。だが、私達の両親や大人達は常日頃から住民税、所得税、そして消費税など多岐にわたる税金を支払い続けている。

さて、私達日本国民は年間、そして生涯を通じて税金を払っているが、それを損していることだと考える国民が、少なからず存在するのではないだろうか。現実、多少の差はあるが消費税率によって、一〇〇〇〇円の買い物をするで一〇〇〇〇円と一〇〇〇円を払う必要がある。それが高いのか、それとも安いのかは、個人の価値観によって異なる。

しかし、生涯で支払う税金のうち、いくらが自分自身のために使用されるのかを知る人は少ないだろう。このことについて気になった私は、実際に調べてみることにした。すると、生涯で個人が払う税金は約三〇〇〇万円であった。三〇〇〇万円は、一戸建ての住宅を買える金額に相当する。私達は、生涯で住宅が買えるほどの税金を払っている。これだけを知ると、

やはり損をしている気持ちになるかもしれない。私は、初めてこれを知ったとき、これから生きるにつれこんな大金を支払っていくのか、と驚き不安になった。だが、

納めた税金は、教育・社会・地域のために使われている。その金額は、一人につき教育費だけでも、小学校六年間で約五四〇万円、中学校三年間で約三〇〇万円、高等学校三年間で約三〇〇万円となる。大まかな値のため一概には言い切れないが、合計十二年間で一一四〇万円は戻ってくるという考えになる。加えて、六〇歳から給付される年金は一月で約五万円。九〇歳まで生きると仮定して総計は約一八〇〇万円。この教育費と年金の金額を合わせると、約二九〇〇万円となる。生涯で納める税金は前述の通り約三〇〇〇万円で、そのうちのほぼ全てが、自分達自身のために使用されるとわかった。残りの金額は、道路や公衆トイレなどの施設費、地域・社会の一員としての活動費と考えれば割に合うだろう。つまり、納めた税金は、全てが社会のためでなく、自分達のためにも利用されているのだ。

私達は、これを知ってなお、税金を支払うことは損だと思えるだろうか。私はこの事実を知って、将来を生きるうえで納めるべき税金を支払い、社会に貢献できる大人になりたいと思った。また、私達が整った環境で勉強できるのは、自分や両親、大人の方々が税金を納めてくれているからである。誰かが私達を支えてくれた分、私達は次の世代を、税金を通じて支えなければならぬ。それでこそ、私達が納税することは、未来を生きる人々の大きな利益となるだろう。